FEB. 2024. VOL.6

NEWS LETTER

エジプト・アラブ共和国
特別活動を中心とした
日本式教育モデル発展・普及プロジェクト

ニュースレター第6号

第6号では、エジプト日本学校のTokkatsu、日常について、Tokkatsuの開発・普及担当者、JICA海外協力隊員、日本の小学校の先生といった異なる立場から語ってもらいました。
さらに本号では、エジプト日本学校での行事や学校間交流について紹介していきます。

第6号の主な記事

エジプト日本学校のTokkatsu&日常

エジプト日本学校紹介

学校間交流

エジプトでは、日本の学習指導要領に定められた「特別活動」を参照し、現地の制度や習慣に沿い現地適合化しています。そこで、本紙では、エジプトのものを「Tokkatsu」として表します。

＼子どもたちがよく語ることに驚きました。／

＼話合いに対して前のめりになる
あの姿勢がすごい！／

エジプト日本学校の Tokkatsu＆日常に迫る

ニュースレターでは、これまでもエジプト日本学校の設備や学級会の様子などをご紹介してきました。第6号では、エジプト日本学校に導入するTokkatsuの開発・普及を担当する「 Tokkatsu 開発・普及担当の職員」、エジプトの先生方や子どもたちの最も近くで活動する「JICA海外協力隊員」、2023年12月にエジプト日本学校を訪問した「日本の小学校の先生」といった異なる立場の方々から、エジプトのTokkatsu、エジプト日本学校について語ってもらいました。

1 Tokkatsu 開発・普及担当の職員

エジプト国教育技術教育省事業管理部(PMU）のTokkatsu開発・普及担当の職員は、エジプト日本学校や一般校に向けTokkatsuの開発や普及を推進しています。 Tokkatsu指導員が行う学校モニタリングへの同行や、研修の実施などエジプト中を飛び回っています。担当のサハルさん、アブデルハッサンさん、アハメドタフィークさんの３人は、プロジェクト当初からTokkatsu指導員として働いていました。その後、PMUで働くようになった3人ですが、当初はお互いの意見を受け入れられずに喧嘩ばかりしていたそうです。現在はお互いの得意分野を生かしチームワークを大切に働いてる3人が、Tokkatsuについて語ってくれました。

2 JICA 海外協力隊員

JICA海外協力隊は、教科担当の隊員としてもエジプト日本学校に派遣されています。美術隊員として活動するJICA海外協力隊員から、エジプト日本学校やそこでの授業の様子をレポートしてもらいました。

3 日本の小学校の先生

2023年の12月に日本式教育（Tokkatsu）の導入状況や変化を調査するEDU-Port調査研究チームの一員として、エジプトを訪問した日本の小学校教員の小泉先生。
小泉先生が最初にエジプトで感じたのは、「エジプトの街にいると、常にクラクションの音が聞こえてきます。誇張でなく、数センチギリギリのところをどの車も通り抜けていきます。乗っているバスも負けじとクラクションを鳴らし、追い抜いていて・・・。エジプトを訪問し、ある意味一番衝撃的だったことかもしれません。なんて主張の強い人たちなんだ・・・」だったそうです。そんな小泉先生に、エジプト日本学校での学級会の参観や児童へのインタビュー、そこから得たさまざまな気付きをレポートしてもらいました。

1 Tokkastu 開発・普及担当の職員が語るエジプトのTokkatsu

最初に自己紹介をお願いします。

サハルさん：以前はフランス語の先生として働いていました。その後、2017年からTokkatsu指導員として働き始めました。
ハッサンさん：私もそうです。 Tokkatsu指導員の前は、中学校でアラビア語を教えていました。
アハメドタフィークさん：小学校の理科の教員をした後、Tokkatsu指導員のようなトレーナーの仕事をし、2017年から私もTokkatsu指導員として働きはじめました。

3人とも2017年にTokkatsu指導員として加わったのですね。

一同：はい、その後、 エジプト国教育技術教育省事業管理部（PMU）の Tokkatsu担当として働いています。

Tokkatsuを普及、推進するお仕事で苦労したことを教えてください。

サハルさん：先生とのコミュケーションです。先生は、最後まで話を聞くのが苦手で、私が反対の意見を提案しても聞き入れてもらうのが難しかったです。保護者は、やはり掃除を理解してもらうのが難しかったですね。何度も説明の機会を設けました。
ハッサンさん：先生の考え方を変えることです。先生たちは例えば学級会のやり方や指導書などで決まっていることは理解し実施するのですが、なぜその活動を行うかなど理念を理解するのに時間がかかります。理念まで理解できたらもっとTokkatsuが広まると思います。
アハメドタフィークさん：Tokkatsuで一番大切なのは振る舞いや態度だと思うのですが、 Tokkatsuの考えに触れ、先生たちの考え方が変わるまでに時間がかかりました。

最初に、先生の考えが変わりつつあると感じたのはいつですか？

アハメドタフィークさん：そうですね、2018年に先生対象の大きな研修があって、そこに参加した先生が大きく変わりました。参加した先生方はTokkatsuを深く理解して学校を引っ張ってくれています。子どもたちは、早くから変わりました。自分の意見も言えるようになり、家でも自分の考えを言うので保護者も驚いています。でも大事なのは、短い期間で成長を見るのではなく、長い目で子どもたちの成長を見守ることで、エジプトの社会も変わっていくと思います。

先生よりも児童の方がTokkatsuに慣れ、実践するのが早かったですね。

サハルさん：子どもたちは入学してからTokkatsuをずっと学んでいるので、新しく入ってきた先生の方が慣れるのに時間がかかりますね。日本では習慣としてTokkatsuを行っていますが、エジプトではTokkatsuは新しいことです。子どもたちが積極的に発言し、先生が最後まで子どもたちの望みを叶えようとがんばっています。そこがエジプトのTokkatsuの良いところですね。

学校や先生方の様子はどうですか？

サハルさん：以前と比べて、先生の態度が変わりましたね。今は理念や意味合いまで理解しようとしています。また家庭でも自分の子どもの良い面を探して褒めてあげることができるようになったと言います。クラスでは子どもたち同士がサポートし合うようになりました。特にスペシャルニーズの子どもに対するサポートは他の学校と大きく異なると思います。
ハサンさん： 先生が授業の準備をするようになり、授業も一方的に教えるものではなく、子どもたちが楽しめるように色々な工夫をしています。先生方もチームワークで働くようになりました。
アハメドタフィークさん：先生が子どもを一番大切にするようになりました。先生が直接的に教えるのでなく、口だけではなく子どもたちの見本になる姿勢や態度も大切にするようになりました。

みなさん自身は何か変わりましたか？

サハルさん：子どもの幸せを一番に考えるようになりました。他にも、例えばTokkatsu指導員が遅刻したり学校に訪問していないときに頭ごなしに怒っていたのですが、現在は話を丁寧に最後まで聞いてサポートするようになりました。
ハッサンさん：以前は仕事が終わると仕事のことは考えなかったのですが、今はいつも仕事のことを考えています。そしてみんなのお手本になるように心掛けています。今までは自分と反対の意見を聞かなかったのですが、今はきちんと聞いています。家でも家族の意見を聞かなかったんですが最後まで聞くようになりました。もちろん家の手伝いや掃除もします。多くの点で変わりました。
アハメドタフィークさん：ハッサンさんと同じなのですが、特に最後まで話を聞くようになって、反対の意見も受けいれることができるようになりました。また日本での研修に参加した際に学んだんですが、楽しいことも準備が必要なこと、時間を守らなければならないことを知り実践しています。

Tokkatsu 担当のみなさんありがとうございました！Tokkatsuを実践するチーム力が感じられました。

2

JICA海外協力隊員からみたエジプト日本学校の日常

エジプト日本学校の美術隊員は「美術・図画工作科の活性化」を目的に派遣されています。エジプト日本学校では時間割の中に図工の時間はありますが、他の教科に変更されることも多く、日本に比べると授業時間は少なめとなっています。また1コマ40分のため、教室・図工室間の移動、準備、制作、片付けまでを40分でこなすことはなかなか難しく、子どもたちも先生も常に時間に追われている印象です。さらに、のりやハサミ、クレヨンなどの数が足りておらず、一人一つ用具が確保されている日本とは異なる状況です。これらのことはエジプトの美術の先生の悩みともなっているようです。そこで、「身近な材料でできる授業」「少ない時間でできる授業」を提案し、それを美術の先生とともに実践することで、悩みを解消する手助けをしたいと考えました。また、図工の授業を通して子どもたちが日本の文化に触れる機会を提供したいと思い、日本の季節の行事や文化を取り入れた授業も提案していくことにしました。

Tokkatsuにかかわる活動の1つとして、授業後の後片付け、掃除を推進しています。「使い終わった用具を元の場所に戻す」「床に散らばった紙くずをほうきで掃く」「汚れたら拭く」というような習慣が、図工の授業の中でも身につくように声をかけています。掃除が、掃除の時間だけに行われる特別なことではなく、日々の生活の中で自然に行われるようになること、いずれはエジプト人の先生と子どもたちによって自発的に行われるようになることが目標です。

教室へ行くと「今日は何をするの？」と目を輝かせて尋ねてくれる子、「これは私、これはパパとママ、これはお家」と自分の絵を説明してくれる子、「上手く出来ない…」と涙ぐんでしまう子、「出来たよ！見て！」と自信満々に作品を見せてくれる子など、素直な言葉や表情は日本の子どもたちと変わらないなと感じます。今後も、エジプトの子どもたちや先生方と一緒に、色と形の世界を楽しみながら取り組んでいきたいと思います。

（2024.01 JICA 海外協力隊 美術隊員寄稿）

「こいのぼり」（３年生で実施）
Children’s dayにちなんで制作しました。制作後は屋外に展示しました。

「ストローを使った首飾り」（幼稚園年中、年長で実施）
ストロー、画用紙、ひもを使った首飾りを制作しました。

3　日本の小学校の先生が語る エジプトのTokkatsu

学校を訪れて

　まず、学校に着くと、門のところで数人の児童があいさつ運動をしていました。よく見ると、あいさつの列の奥にはカラーコーンとフラフープが置かれていて、登校した子供たちはジグザグ走やジャンプで楽しそうに通っていました。中には上級生が手をつないで一緒に通ってあげる姿もあり、心温まる光景でした。

　登校した子供たちは、そのまま荷物を置いて、朝の体操に参加します。音楽に合わせて皆で一緒に声を出したりダンスをしたりするのです。私も一緒に入れていただきました。すると周りの子供たちが「おはよう」と、知っている日本語でしきりに話しかけてきます。それらに答えつつ、彼らの声出しを真似して声を出すとそれを見て彼らは笑って・・・。お互いに笑顔になる、とても楽しい時間でした。

学級会で

　驚いたことはいくつもありましたが、3つにまとめます。1つ目は、子どもたちが自分たちで進行していたことです。エジプト導入初期の学級会では半分以上が教師の発言だっただけに、衝撃的な変化でした。教師は、なぜ今自分が話すのか理由を述べてから話していました。2つ目は、子どもたちがよく語ることです。議題に対して一人一人が思いをもっていることを強く感じました。そして3つ目は、その思いをお互いに大切にしていることです。反対が解決できない意見は、たった一つの反対意見だけでも決定されませんでした。

　今年度、研修生として日本で150近い学級会を見てきました。その経験からエジプトの学級会を見ると、いわば「無駄」も多いように思います。けれど、話合いに対して前のめりになるあの姿勢、あの活気は日本でどれだけ見られただろうかと考えさせられました。

子どもたちの声

「私たちは”Tokkatsu”で協力と責任を学んでいます。」
「責任を取れるということは私たちが大人になっていくうえでとても大切なことです。」
「みんなが参加できるように考えることで、もっとよいものになっていくと考えます。」
同行した研究リーダーの先生が「大人以上に子どもが特活の意義を理解しているかもしれないね」と話していましたが、私も同感でした。さらに「 エジプト日本学校は特別であり、他の学校にも”Tokkatsu”が広まってほしい」という児童に対して、「そうなるとエジプト日本学校は特別ではなくなるよ」と通訳の方が突っ込みました。それに対する彼女の答えは「そしたら私たちはもっといいアイデアで学校をよりよくしていきます。お互いに高め合っていけたらいいです。」というものでした。それを聞いて、私は目頭に熱いものを感じました。

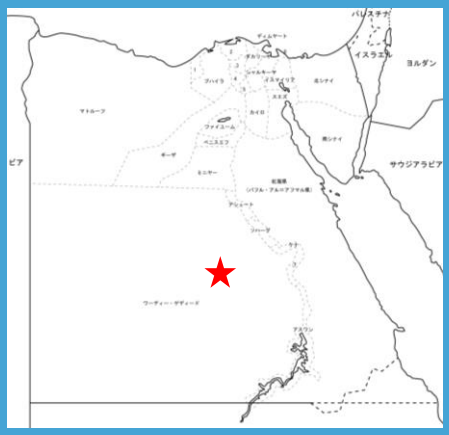
　今回のエジプト訪問で、思った以上に”Tokkatsu”の理念が浸透していることに驚きました。エジプト日本学校訪問の帰り、バスの外を眺めていると、1台のバイクが思い切りクラクションを鳴らしました。それを聞いた前の車は強面なお兄さん。怖いなあと思っていると、手を窓の外に出して合図をし、すっとどいていきました。それを見て、ああ、この国はお互いに主張することを認め合っているのだなと感じました。どちらが優れているという話ではなく、どちらにもいいところがあります。そしてその両方のいいところを”Tokkatsu”で生かすことを学び、よりより世界にしていけたら、そんなことを感じたエジプト訪問でした。

（2024.01　令和5年度埼玉県長期研修生　國學院大學杉田洋研究室
深谷市立藤沢小学校教諭　小泉 琢磨　寄稿）

エジプト日本学校紹介

2024年1月現在、エジプト全土に51校開校しているエジプト日本学校。各校の紹介と合わせて、学校ごとの取り組みなどを紹介します。

ニューバレー校



ニューバレー校は、2020年に開校した学校で、首都カイロから遠く離れた砂漠の真ん中にあります。幼稚園と小学校1年生から4年生までの188人の子どもたちが学んでいます。
教員同士のチーム力や保護者との連携が強い学校で、学校外でも学校関係者の輪が広がっているそうです。

祖父母の日のお祝い

行事の準備
この行事は、幼稚園教員によって、企画、プログラムの計画、場所、参加者、道具などの提案が行われました。祖父母のおもてなし、イベント会場への案内、幼稚園児全員を対象とした作品の展示など、チームごとに役割分担を行うなどし、月間を通して進めました。 子どもたちは教師の助けを借りて自分たちで作品を作りました。

当日の様子
当日は、28人の祖父母が参加しました。校長先生の挨拶から始まり、祖父母とのいくつかの活動、休憩時間には昼食を一緒にとり、その後戦勝記念日の展示の見学、最後に写真撮影を行いました。

祖父母の方は、孫やクラスメートなどすべての子どもと一緒に遊んだり、活動に参加しました。
祖父母が孫と初めて会った時から今までを振り返り、孫への思いを伝え、子どもたちからも、祖父母への愛情や親しみを伝えあいました。

行事が終わった後に子どもたちは、祖父母に感謝し、参加してよかったと喜びました。

最後に、参加者へアンケートを実施し、今後の貢献の提案や気に入った点、改善すべき点などを声に出していただきました。

（エジプト日本学校ニューバレー校長先生）

本年度に実施したエジプト日本学校の行事

日本の学校と同じように、エジプト日本学校では多くの行事を取り入れています。多くの行事では、保護者が協力し参加しています。

運動会での親子競技

日本の文化紹介の日に
おにぎりを作る子どもたち

算数の日

Tokkatsuの経験共有
―学校のカテゴリを越えた学校間交流―

本格的に公立学校での普及が始まったTokkatsu。昨年から、エジプト日本学校やパイオニア校、公立学校では経験共有を目的とした交流がさかんに行われています。その一部を紹介します。

パイオニア校：全国の公立学校から選ばれた12校で、日本式教育モデル導入当初はパイロット校と呼ばれましたが、現在はどの学校より先駆けて開始したことから「パイオニア校」と呼ばれています。

エジプト日本学校×公立学校

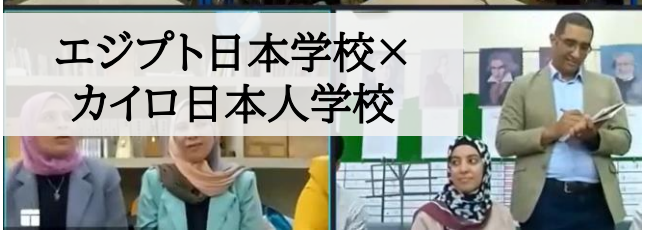
上の写真：エジプト日本学校
下の写真：公立学校でのTokkatsu

エジプト日本学校と公立学校との学校交流が始まっています。エジプト日本学校ケスナと公立学校では、最初にエジプト日本学校が公立学校の先生を招き、授業見学会を行いました。招かれた公立学校の先生方はメモをとったり写真を撮ったりと熱心に学んでいました。 次にエジプト日本学校の先生方を、公立学校が招き、学級会や学級指導の授業の見学や、意見交換が行われました。また、日直、そうじの実施でも経験共有が行われました。

パイオニア校×私立校

カイロのパイオニア校では、地域の教育員会と協力し、近隣の私立学校の先生を招きTokkatsuの研修を実施しました。

エジプト日本学校×カイロ日本人学校



エジプト日本学校とカイロ日本人学校では、これまで縦割り活動や運動会での交流、また授業研究会の参加などを通し交流を深めてきました。 9月に行われた手洗いの授業研究では、日本の有識者もオンラインで参観し、終了後に研究会も行われました。エジプト人の先生方にとっては、実際に日本の教育を見る貴重な機会となっています。

Tokkatsuの実践を懸け橋に、多くの学校で交流が始まりました。それぞれの実践を共有することでよりTokkatsuが深まることを期待します。

第6号ニュースレターでは、エジプト日本学校の日常の姿に迫りました。また、学校のカテゴリを越えた交流は、今後のエジプトでのTokkatsuの普及において大変重要となってくると感じています。次号でも、エジプトのTokkatsuをお届けしていきます。

問い合わせ先

JICA技術協力プロジェクトチーム
holistic_edu@padeco.co.jp